

## 「年間第 16 主日」 2021 年 7 月 18 日 「一緒に祈りましょう」

皆様、  
主の希望、信頼、平和のうちに、  
難しい時期ですが、復活の光であるイエス・キリストはわたしたち一人一人を教会共同体として導いてくださっています。信仰はわたしたちの盾です。

7月18日は、**「年間第16主日B」**です。

では、ミサに参加することができない方々は、一緒に心をあわせて、祈りましょう。時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2021.7.18」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読 エレミヤの預言書 23.1-6と、「答唱詩編」23 (22)、第二朗読使徒パウロのエフェソの教会への紙 2.13-18と、マルコによる福音6章30-34節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い/共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

### I- 第一朗読 エレミヤの預言書 23.1-6 について

神は自分の民(群れ)のために、民を指導する悪い指導者(悪い羊飼い)を投げ出します。その代わりに、神は散らされた羊を探して集め、一つの群れ(民)にして、新しい羊飼いに任せ、ある日新しい王(メシア)に託します。

### II- 「答唱詩編」 23 (22) について

レビの祈り、エルサレムの神殿への巡礼者のための歌、王の即位「戴冠式」(たいかんしき) で油を注ぐ時、出エジプトと追放後を思い出す時などに、メシアを待ち望む祈りとして唱えられました。

主は言われた「わたしは彼らのために一人の牧者を越し、彼らを牧する。」(エゼキエル 34.23-24)。

イエスは自分について「良い羊飼い」と表現しました。そしてイエスは巡礼者として、メシア・良い羊飼いとしてこの詩編を祈りました。(ヨハネ 10.1-18)

初代教会の教父(1-4 世紀の聖人)は イエスが失った羊・罪人/弱い人/障害を持っている人などを大切にする方であると言い表し、イエスの「失った羊の例え話」を解釈しました。(ルカ 15.4-7)

+ 洗礼を迎える方のための祈りとしてよく使いました

- 「...正しい道に導かれる」 信仰の道、救いの道です。
- 「...水辺に伴われる。」 洗礼・水のしるしです。
- 「...わたしの頭に油を注ぐ」 聖香油のしるしです。
- 「...会食を整える」最後の晩餐・聖体拝領です。

主なる神様は私たちを導いてくださる牧者です。その恵みは、いつも私たちが満たしてくださいます。いただいている恵みを思いながら、私たちの行くべき正しい道とは何なのか、考えてみましょう。

### III- 第二朗読使徒パウロのエフェソの教会への手紙 2.13-18 について

「一人の新しい人に造り上げ(ました)」(15節)とは、もうユダヤ人と異邦人が別々ではなく、イエス・キリストの十字架(洗礼)によって、父である神の新しい民/ファミリー/教会が生まれたことを表しています。

### IV- マルコによる福音6章30-34節 について

マルコ6章7-13節(15主日)の中にイエスは12人の弟子たちを二人ずつ組みにして遣わしました。その時12人は歩いて、ガリラヤ州の近くの村を巡り、イエスの福音を伝えました。この宣教活動の大切なことは、用いた手段(パンも袋もお金も持たない等)ではなく、信仰の証しでした。このマルコの箇所、派遣された12人は受けた使命を果たして、イエスの所に戻って来て、自分たちが行ったことや、教えたことをイエスに報告したことが分かります。イエスは弟子たちに静かな場所で「しばらく休むがよい」と言われました。しかしイエスは休まずに、彼らについて来た群衆を見て、憐れんで「飼い主のない羊のような」様子だったので、いろいろと教え始められました。

12人が使命を果たした後に、イエスのもとに戻って休むと言うことは、何もしないと言う意味ではなく、信仰を深め、福音を新たに理解し、宣教活動を見直すという意味が含まれていると思います。

同様に、使徒パウロも各宣教旅行を完成してから、まずアンティオキア、またはエルサレムに戻って、遣わした方に宣教活動を報告しました(例/使徒言行録14.26-28と15)。そして、「休む」だけではなく、次の宣教旅行の準備をしました。

日本でも百年以上前に、歩く宣教師カディヤク神父師は同じように行いました。江戸/東京の八王寺(拠点教会)から出発して、宮寺、前橋、足利、佐野、部屋、宇都宮、水戸、市川、などの北関東の道を辿って、2-3ヶ月をかけて、あちこち巡回し、キリスト者と出会ったり、福音を宣べ伝えて、八王寺教会に戻りました。そのあとカディヤク神父師は、行った宣教活動を当時の司教に報告しました。そして彼は次の出発までの間に休むだけではなく、黙想によって信仰を深め、聖書など神学を学び、新たな証しをすることが出来たのです。

イエス・キリストの弟子、証し人として派遣される私たちも、休みを取る期間(夏休みなど)に、教会の使命や、新たな共同体の司牧活動を思い、信仰を深め、福音の理解を深めることなどを考えてみましょう。

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「慈しみに満ちた神よ、あなたは牧者キリストを遣わし、すべての人を呼び集めて下さいます。ここに集う私たちが、いつも主の言葉に耳を傾け、その教えに従う者となりますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

## 新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、  
新型コロナウイルスの感染拡大によって、  
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、  
感染の終息に向けて取り組むすべての人、  
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、  
尽きることのない安らぎに満たされますように。  
不安と混乱に直面しているすべての人に、  
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、  
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、  
世界のすべての人と助け合って、  
この危機を乗り越えることができるようお導きください。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、  
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

### Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,  
Look kindly upon the world, now in great difficulty  
Through the spread of the new coronavirus.  
May necessary medical care be given to those who suffer from the disease.  
Guide those who work toward ending the infection.  
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.  
Welcome the deceased into your eternal kingdom.  
Fill them with everlasting peace.  
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.  
God, the source of hope,  
Guide us in this crisis  
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,  
That we may serve everyone in the world,  
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.  
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)